丹鶴叢書

草根集 四

117
105
2

東京圖書館
和書門 藝香 類
仮 函
二 架
二 號
一〇五 册

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

東京帝国大学図書之印

草根集第四　次第不同

春部

故樋口博士蔵書

枇原家蔵

三春　もゝちゝあまくさあまく原ゆき三かの一さとなる四月の海の乳

花盛　咲匂ふ岩の梯のもとうつてゝもむつふ彩を日くらし

暮春　いつくふをとゝ山ゝ行をとゝむ春のゆゝ行をとゝ

早春霞　をとゝぬ春や天のかゝ山ゝ春ほゝけ衣なるらん

初春山　もゝくる山のこゝろ山ゝ春こゝ嘉家をとゝ春なる海の春

待子日　春のをとを人もみゝとゝ消めゝん所るのゝ日をまつの白雪

梅薫風　なつゝく世のもゝよゝもぬる梅をとゝ天つをとゝあれ神のをとゝ風

鶯知春　鶯の初の原の長るゝ春氷とけ行ゝまをぬゝ春

霞

[illegible]

海山をたちくるくるあけぬれば（美ナシ）霞やもちのくるらむ

[illegible]

餘寒風

[illegible]

曉帰鳥

[illegible]

野若菜

[illegible]

柳

[illegible]

春曙

[illegible]

梅交松芳

[illegible]

曉梅

[illegible]

松間鶯

[illegible]

海上曉霞

[illegible]

梅交松

[illegible]

三春

[illegible]

霞

[illegible]

江上春月　[illegible]

婦鳥　[illegible]

牧春駒　[illegible]

賭射　[illegible]

春風　[illegible]

若菜　[illegible]

山霞　[illegible]

緑竹雜春　[illegible]

春雨　[illegible]

春暁月　[illegible]

待花　[illegible]

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

侍山花　つまとなるさをしかやちとせ神楽もまつ門もさかぬ

見初花　咲もよあるとものさえやとゝ新ハ春もそよそよ

初花　初花のたつや春の薄衣ほのぼのとあるのやまの

花　ときはなるこゝハ紅なつ桜きまゝやまのもの初花

咲まゝふもしちゝハ白さの清とぬまとなちやさ初む

ものの毎ほのゝるる世ハさとも色も昔の花の紅やなるむ

又そこる花もちゝハ老ふ世のゝ春ハくさそ思ふむ　み類

山花　ふの初ようつゝようやるなるぬものゝみしまゝ初ん

山中花　咲つを宮の宗も咲こさんむとそあくるふるゝく　めゝ辺る類

閑居花　まゝるゝこゝ風ふふて数かるる花のおとゝく家の内ふ

梅風の八月宿ふ名ハもゝ花のあるや使ふむ

花聟春　晴のゝるもゝ新春むとを水のなる乃ハ浦ハ

早春　くるもゝのかゝ話ゝめて世ゝ宿ゝ春をそゝく

咲を待むの新ふハ春ハ春のうちやもみのふるむ

天の糸あゝいるくかもむ日も光まる世乃まるの之弐

早春山　霞のゝよいゝくゝ毎のふゝ初ふかゝ千ものさぬん

新まくもやゝもむ新日新の山る西の山そのゝまの春

霞中春雪　春のゝる春の世もまゝ山ぬゝ風ゝるみ春やゝ浦

霞添春色　咲しゝもなゝ緑のゝゝこゝふぬ春やこのめまるゝ光

海霞　ゝゝん浦ゝもゝる世の浦ふゝ新ゝる世や春なるゝむ

あさぼらけ山のくまゝにかすみこめて
浦風さびしきあけぬとみゆる
歸鳥　遊びなるこゑのうの花ぶきなるむくことをうるかなとの秋
風ふきたゝ弱もいたくふるをいとくふるむとの乃ゝ
夕鶯　宮のうちのうゝ春の夕のかすみこそ乃こゑ
殘雪　まさきゝ枯のまをもの
きえぬるかのこゝろのむゝ鳥たゝ
歸鳥　みゝちふゝゆくもちの乃ゝ
春雪　彩雪をうゝもまゝきをの
雪中梅　梅ゝの花ゝまきうゝ

山寒花遲　橘山雪ゝまゝ風ふきゝて
草漸青　ゝ枯ゝをかゝゝ
山路尋花　ゝゝなゝゝゝきゝゝ
松契多春　八ゝまのまゝる松やゝ長を二葉ゝ
山朝霞　秋日新ゝりのちゝふかゝめるゝゝぬ
鶯　ゝ花ゝまゝつゝゝゝ
朝鶯　秋ゝゝゝゝのゝちゝ行ゝ
暮春鐘　かゝゝゝたゝ里をゝゝゝ
ゝゝ入ゝのゝ秋のゝゝむゝ
歎冬　ゝゝのかゝゝもゝゝ

山城のゐてゝ[illegible]

山里のをしまのやまみちやゆきとけもる山ぶきの花

立春天　神世よりやゝ[illegible]の神ゐたるもの[illegible]

初春天　月日をめぐる[illegible]

江上霞　[illegible]

[illegible]

あさぼらけの入江のさゝなみ

朝若草　けさ[illegible]

夕帰雁　[illegible]

山霞　山姫のもの衣のあさつゆをかさねてたつの[illegible]

天の[illegible]

春夕花　[illegible]

春曙眺望　天[illegible]

野外春風　[illegible]

霞添春光　[illegible]

霞春衣　[illegible]

川[illegible]

[illegible]

江上霞　[illegible]

[illegible]

白露の玉つまくよかともむしの音ばかりのこる野の風

澗落梅　初時風谷ゆのかる梅ゆきつよるもをの人の月そいさうよ

霞障遠樹　杜ゆるさる枝をそ見ゆきこゆる斗ちるの月の雲むせこい

まさこの梢の風やさこんあのそしーのふとちさこ

早春風　ふきまんにまこ所ゆくこの天の岩戸の窟乃ち風

雨中紅梅　うくひすの涙のるも紅ーれちこう色のちのーこ風　考異

澤若菜　星人やワふつもこーゆのこの松もたこよ鶯ちむ出ある

ほよゆる雪をくよくこせくゆるこ別をたつあさるこ

河春月　ものものいこふゆのおくこ文て彩こぬ浪よこくく月新

園中櫻　ら紙のこの垣曲おこせこちをこめこる花もき岩を

こ枝

海邊春夕　白ゆこ法の遊の京橋ゆこちみこうつる月乃こなみ

浦春曙　ワこの屋ゆあむこここちこ浦のここもきこまを乃曙

春與　新ここぬ月のかこ稀のこ花の宿ゆあのこえ明くこうこ華

立春　ここ返ーゆ浦こ正ぬこめこをのきこをこ月のきるゆこる

ゆこをこめこここ孔こも花をぬ中きをつ孔こる山の雲ま

かここむこ山庚ここ日のここをふこうここ中きをきこるこん

山春曙　法このここむ山くゆここほのこ花もゆこ孔月もなこきこ

かこゆこここ中このここゆあ峰三のこ孔ゆ行ほのこゆ門

白こむかをここる山をここみこる文をこる月のゆここの

喚子鳥　巣をこむくこ山の巣ゆこゆこ中こをこうこるのこる孔こん

霞添山色

天地千仞のよそもくるまとまるにのがれむ山の色

躑躅

行きもどる行のつゝ咲もの花人日のあゝのうゝを

春月

きゝたゝ雪むなしひの月新をまふさるやまあるらん

孤島霞

くれそもるひさかたの八重まよりゆふ島のこえぬ霞

冱邊雉

ふとゝ鳥ふゝのさゝ原ふ紙ふたまふゝてゝ雉

野逕雉

雪ふまりて逕ふゝ人のおりゝるゝ雉

春夕

雪消しものゝ色ゆゝあゝつゝあゝゆるゝ乃ゝ

早蕨

雪ふまりゝるゝ雪のゝ人

落花

ゝれゝ雪の花ゝゝ

梢よりゝ花ゝ風のゝ雪ゝ

春夕鶯

雪ゝくゝゝ鶯ゝ

桃花

めゝゝぬゝゝ花ゝ鳥ゝ扇のゝ

沢邊春駒

ゝ春ゝゝゝ駒

春駒

ゝゝ駒ゝ

春動物

花のゝゝゝゝ

残春少

ゝゝゝゝ

名所藤　[illegible]

橋下藤　[illegible]

路藤　[illegible]

藤埋松　[illegible]

霞　[illegible]

尋花　[illegible]

霞　[illegible]

夕春雨　[illegible]

梅交松　[illegible]

立春　[illegible]

海邊霞　[illegible]

立春　[illegible]

春江　[illegible]

春鳥　[illegible]

春虫　ひくまくもゆるよるの青緑かなむ夕乃松すしもあ

春朝　ちるもなぬ天つきなの春めるをとをさるもの風

春天象　そこゆるもの衣をとかむ人さこに里川春あれ

岩里の花るの祢もかをむ日の光のもにまるもあ

ほのくる霞の衣をもいつのをらう天のまろム

春植物　ちるのこゆ松る岩なのを梅むむ一の祢きくあき

ちるのもの花ものるを梅むさらきてこん人のな

花形見　ほかのこみのあつのこをさとやを花をこのの程はあるん

ゆきこつちき嵐の岩の雪をもかこをもゆうを

花下送日　ちつをたちぬる月のよむこなの匠しもあぬるの絵の孔

名所花　祝祈めるものを海の系さてかつを浦こ祢のあるの

ちつをムをの人の浦も浮むの匂ひの間よつむこをあ

老栽花　うきあのうまちまあひう老ムの春を花よゆ匠

ムをとくこるもちらし梅むもく植おく所ちるのち

栽花　うあおくこうふ一梅ちるの学の人の品ひの程とちるふ

深夜花　浦さよの花のあ浦ようむ春さよあ浦もむものの恨

落花入簾　さこハあまもぬちの山の匠系浦く神とあつ人を花てこるい

彩浦さこのあ系ちムをもる祢やハちる風こ吹く

梅移水　浦るのほこひこ春もぬ波みよかこ人鶯の巣ちる遠ちる

波つ匠新こぬ梅も花の春ちこ花ちる春の河の風

梅花久芳　咲梅も枝〻乗上の影〻さそふ春の友〻まつしるる

暮春藤　夜深の月かる里の藤をつゝみかくしつゝ春のくれぬる

暮春橋　こしもとのもとの月の影ゆゑもちぬ花のおもかげ

暮春江　日数なきふる江のすゑ〻一数はるもうしてくるまちの

初春　天つゝへむる雲のとゝ返し又たゝまるまを六月ふ

湖邊霞　ちのうゝやこるめなるこちよ磯かもむ延のゆ社もあむもをふ

嘉さへ山江の江のこふと風のつるやゆのまの社なゝぬるみ

初春　松のほゝえのつゝまのもまつふ名と波くまやさぬらむ

寄告春朝　ゆるまゝいて初ん霞の内よ初くの新〻のうゝふをの名

梅霞得客　旬新といくる人を我ゐゝおるゝめ中のうゝ花のゝもひ

子規

松色春久　松のゝ八四のゝゝゝのもゝふゝゝてよまへぬらゆ

春日さゝ緑やもみち松のもゝのゝゆゝゝ

押小煙　うちゝゝ雪ゆ中の松ゆゝるゝゝゝもゝぬ霞のやけ原

水郷柳　松もゝぬ岸の松の影ゝ〻松むゝやかゝ〻宇治のゝ姫

川さゝ〻や松の影も井ゝあゝ名ゝもゝみのゝのこゝも

柳辨春　日影さゝ一本柳ゝゝゝひゝゝたゝゝまゝゝ四人の新〻も

春雪　天津風ゝゝくゝゝ空ゝゝめゝゝゝ〻やゝのつゝひの袂なゝゝむ

滝上櫻　ゆゝゝ初の花ゝの白浪いゝゝあゝゝ形ゝ花ゝまゝらん

山路春曙　本中ハゝゝゝゝゝ〻〻ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

岡春草　松ゝ江のゝゝのやゝゝのゝゝまゝゝ社風ゝゝゝゝ音の下ゝゝ

山霞　[illegible]

遠村霞　[illegible]

立春　[illegible]

湖朝霞　[illegible]

山花未遍　[illegible]

関路花見　[illegible]

海帰鳥　[illegible]

湖帰鳥　[illegible]

遠村柳　[illegible]

柳垂絲　[illegible]

春山田　[illegible]

蛙聲出　[illegible]

夕蛙　[illegible]

山家春雉　[illegible]

野外雉　[illegible]

岡雉　[illegible]

雉　[illegible]

苗代蛙　[illegible]

朝菫　[illegible]

春山松　[illegible]

田家春雨　[illegible]

朝山霞　[illegible]

夕雲雀　[illegible]

月前霞　[illegible]

暁月春静　[illegible]

谷帰鳥　[illegible]

帰雁成字　[illegible]

遠帰鳥　[illegible]

初春松　[illegible]

霞春衣　[illegible]

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

かすみつまはたほのゝあけぬるさ衣ふう〳〵風そふく

花初開　白雲もしのゝ下もしもきき日にのつとてワるるものやまの梢

夕山花　夕附日おもしろ山の杉のさゝ分けりしゆる花のさ風

山家花　山里ハもとちいさのつるさ世のうゝゝのもろ夕かせ

落花　さゝ〳〵もちるふさゝゝゝ風除兼世のまをつゝて作ん（いつく一本）

ゝためや嵐のまの杉のむらゝこの世のうゝをゝ分らす

ゝまの花ゝうゝハ咲ゝもるなゝふくゝも風やうゝゝむ

苗代　杉ゝゝゝたまゝもゝこめゝ石ゝゝゝかゝゝゝゝもの苗代

梓ういゝのみゝめゝ行ゝゝく杉ゝく小田ハ鳥もゝのゝゝ

神垂ともよりもおゝ乃のゝ石ゝ植やうゝゝものゝゝ乳み

野雲雀　野ゝの床ゝ雲雀をあゝゝ詞のもゝうやゝゝあゝゝ

妻ゝめゝ野ゝるのゝゝみ貸のゝめゝるゝゝふくゝゝゝゝる

野逕雲雀　玉ほゝの野ゝのゝゝもゝゝゝゝゝあゝてのゝゝゝゝ

夕ゝ雀ゝゝのゝゝゝる（ゝゝる ノ類）ゝやゝゝゝのゝゝハあゝゝゝ

橋花　大ゝ川花のゝゝゝしゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝるものやゝゝ

月前花　おのつゝゝゝゝハゝゝゝゝゝゝゝゝ（く類）

終日對花　ゝゝめてゝの日ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝ雲ハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

立春　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

閑路霞　ゝゝやゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

海路霞　ちはやぶるうらまいく船の路の名玉しきえ出くかきもむ浦の霞

野外残雪　かすみたの浪をる稲ハ波のこのあさぼらけ白きものは雪

曙春雨　嵐の松ふきをろしてもものまくてさ照の月

浦春曙　いさゝ火の海むこゆる延ちくふそのうゝ口のもとの照

春のよのうゝ島嘉ゝ雲たいやまゝ一けの海の雲

うゝ風むかしみのうゝくこるゝ海の月の生きてちの山本

行路梅　世のゝ梅ゝまゝる詞のもとをとめぬるやたいさもん

浦春月　をしほやく延ちのたゝてさ嘉六月と調よおせさ乞ん

花春友　ちをこゝ花ハ姿もやゝろ人ちとやちの友ゝさ洲

庭上落花　梅むちの白和のみの空法のかさあるゝのさ山の宿

島花　高ゝ文神世のちやゝ神ゝちのゝまの花とゝ名ゝ

折花　手折ゝ花ゝ桜のちゝ花ぬるまかゝ山ゝ称

ゝかゝくまを行る花のちゝとも志ぬ翁といゝなりゆく

朝落花　ちまなる家の移るに松ちのみさゝ花ちる桜哉

花随風　嵐のゝのやみのうゝを八ちゝよもむさて花ちゝを拾く

青柳のなむくハちゝて桜むさゝれやゝさ春のち風

山春月　ちる月ハ移のちの山のみやゝんゝ仏ゝ嘉む月のゝ風

旅宿帰雁　ちの月ハかゝ移の夏れゝ桜むゝゝさゝ仏ゝ海ゝ人の移

名所春曙　四ゝゝゝあゝまゝゝ八のまちのむなゝちゝよ嘉むもかゝのみゝて

古寺春雨　春のゝ四ゝ山海くちゝつ生ゝちる八ゝや神さゝゝむ

原雲雀　[illegible]

夕雲雀　[illegible]

澤春雉　[illegible]

（一本）

蕉路蹠躅　[illegible]

水辺蹠躅　[illegible]

樹陰蹠躅　[illegible]

名所藤　[illegible]

松上藤　[illegible]

古寺藤　寺ふるも雪ふかうきこの愛をしるしるとは

池上藤　[illegible]

紫藤　[illegible]

歎冬散　[illegible]

暮春雨　[illegible]

暮春雲　[illegible]

暮春曉月　[illegible]

立春水　[illegible]

三月盡　やよひいく世をとる月まちわたりとやくるまちのゆくらん
　　ちはやぶるたてくるやまのいたつらすゝ
霞中月　あくさもむる光の海のしまかくれてをとめぬものの月
　　星ちりかゝれ神の中しのまゝ
濱帰鳥　おくそこやタハ少よ風のむこの谷をしこ屋の紅
帰鳥出　ゆくてこそみるおもふ天やのまそよのうてむくるうかは
花　白　はのトよんなまめそ梅ちとかりの心世よ白ふ山の雪
翫　花　おくさ久花ちそ久しき玉章のめ好ちなる山さくも
　　ひつかとえぬ世のものもあるぬをやちをちをん
杣　花　まきまの久神ちそ白へ変かるゆさへ花よみぬの杣人

嶺上花　ちはやさら花のあらりのへまよ宮の如てるそる乃山てら
花浮水　雨の日ハ波やうにしはのうちのまさこに浮る花のこれさん
遊　糸　きこれつむまちこへもいそちしたの浮ちを糸ちの
春日遅　あつるまの宮ほもちをぬぬ（一変）ぬをそ杜のいなつまろうそ
　　ちの日のまさ出ぬまの秋なうこふこうこ彩よ入あんのの山
渡帰雁　ひこの海やこ孔とのものあこ小田ちそ石ちれぬる
帰雁漸稀　ともあこぬ世るのろのちる海ちるてかるをあしやちこん
杜間藤　霞ちちる梢の夜ハ花ちここく石なこぬかちとのさそ
春　獣　タかちこ毛ひ月の牛ハあちこそかちめるろよを人むし
暮春獣　ひいこつちの大山ちなくさるのちこちるちちちくれの雨

三月盡朝　さくらはあさの名ごりのちるもゆふ
早春霞　さきの三月なかばつゆかへらぬやとのまちに春ぞ
浦霞　むらのまのみなとをかくす春むく清水る舟のとまの浦あく
落梅　はつかぬ梅のもとをあらはすくちなしのうくいたて
梅なしや花のこゝろの春をつゝみあまの風をとる雲のさゝ
霞初聳　れ人のたなびくかぎりはるかにうらゝかすをとく春の舟
霞隔浦　白鳥もかすむ水の夕波よたてるやいつともなくのまゝ川
遠帰鳥　きの下のるもせつまきを雲をとれそんてはりひけるゝ
梅遠薫　新たゝ梅の匂ひをおくるぬ春あの月のちゝ世
　　あらしふきまさる梅えちらぬまも花をそゝぬ匂ひ

河岸柳　ちゝまさはほりふるむくもみ川岸の柳もとみえぬ
草庵春雨　まの尾根ぬるゝ雨のはるのまをさせ乃古こ
椿葉春久　葉のつをしたむ咲ちも万代をやつをの椿のそゝふをぬ
花霞　春ふかしく烟のそゝふく花よりたちをし松もうゝそ
古寺花　おくふかき彩のかゝりに松ちゝく花よかもある春の灯火
花僅閑　山鶯ものまもとをのそゝ苔のむしろたをまつん
獨見花　ちゝ彩ゝるある人のいはそ月よ春めるむの下かゝ
花如雪　花なをやは彩ちるもゝ雪とふゝてゝやゝ雪風落くる
竹間花　ちまもあふくまよもあるぬ竹そゝやゝ雪花の枝ちる鶯
花下忘帰　忘れなん花よ月数のへくるいさちゝの宿そをさと

磯花　くれかをむもかるをの磯まてゝ袖の新々の花をうる迄

暮山花　うる根こゝ山なるの夕日かゝ清く梅よりつるもしかのこの枝

雨後花　あらかゝ雨の名残の花の雫ほゝ紅も風やいとゞむ　袖一本

春日　花のうに学ちゝ山ちゝ春の日の出てまゝ山く風ゆるゝて

惜帰雁　ちのるまて二ゝに山ゝ雁ちる岸のゆるゝゝむ

田帰鳥　数ゝよりゝ稲ゝゝ鳥ゝゝ衣ゝゝの田るゝ鳥山ゝの

初春霞　ゝゝめゝゝたゝぬ雲ゝ神ゝるのゝ春ゝ衣

霞　類　春をこめて霞めるゝつの昼ゝやゝゝ山ゝるゝ

霞障村　満類一本　やまゝ川ゝゝゝゝしゝゝをの霞ゝ山ゝるゝゝゝゝゝ

曙花　梅むゝに移なるゝゝをゝゝて空ゝゝ山ゝゝゝ

春曙　山風も花のゝ山ゝゝ梢のゝをゝゝてゝるゝ山ゝゝ

雨後花　ちゝぬゝゝ春ゝゝゝ花のゝゝゝゝゝゝゝ

花鏡　掛ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

山梨花　口ゝの京ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

春月出　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

樵路早蕨　下ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

羇旅暮春　旅のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

山家春残　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

晩霞　春類一本　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

松有佳色　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

湊畔霞　あまのこぬ嶽の社のこぶかうち舟のつくしのも

漸待花　もろすがたまつ山の山櫻枝をらてやもいそこの春

杜花　はるさめのこのこの花の露よりゆる時中の杜の櫻本

花浪（根一本）　塩の海のなごさの櫻花も松よかつる波をかけあそこ

花便　吹風をちこちはやうしと思ひ立ものたよりのたよりかん

花浪　石走る滝なごさ花をかさしても松あそこをもの流れ

落花風　ふもとしめてもむよこそつ春の衣こあるよもあぬもの山風

春ふよまつこそやうし花さそふ風のこのまのつきし

こしやふそちるとこさんを松ちるめちろけをの山せ

曉婦鳥　早苗も杜（八美）こそこる天川のこそれ時よかつるおこの孫

田若菜　こし秋のこさ田なこさをこ見ぬ山まのこ家もえやもえ霞む

摘若菜　みの野をたつやこもを人九重の松のおもつなを櫻おこ

早春朝　もる新みなこさもの氷をもとこやこ水よおつる新霞

曉霞　五日の月出こここ春の松のよ里も山も霞むここ礼

花春友（う美）　老ぬ春ハいこ山ひをさこもの山もこ山なるもこ山

花未飽　詠つ春ふよむこ山のねよりこんをこ花やこるこ山

花半落　ふ櫻こくこもつ一春花の二をも梢もおなこさかりを

山花隨風　枝なここ山ひこ神こ山櫻ありまあここのこる流

春陽邑蘭　嘗のかつるこ流のむこさここものこ神をこ流よ櫻流

雪中早春（う美）　かむここり山のこ一春を氷こるこもあつこさあこをこしる

霞遠山衣　かすみまとおもかたちきる人の遠やまき秋の山路の色
水郷朝霞　ふるさとよりくるかすやさんせん遠山裏む秋の志賀の浦雲
依梅待人　袖ふれてまてる人のうめ香をそなる梅の風にそくもも
夜帰厂　ちつよく秋なつさももよりくやの袖をかりのもと衣
花　えくももさと花もうき世を宿りて風待ちのもの歩を
橋下花　花ものもの遠風ちく匂へるつむ井川のそ
花添春月　まあるまくみ山ハ雲あめのまあるまくあのまの月そもよそそ
花　雪　雪もものもの秋さの衣とやそ秋も裏乃たちはるらす
初　春　作りの涙のまさををかくるも光もまる玉津島山
海路霞　そくの原山をまあてよるかもも雲の路るまもの舟人

遠山霞　そくのくもおむく裏やんあてふ狩ときもてう三みの山
路　梅　ぬまつそ行きの梅のもをいありてふあき袖乃まもさめ
春洞霞　行海きうのく山の音の泡裏の法のつるそまつり出る（のこれる類）
帰鳥遠　さ乃船のまく山眉の秋も新くく朝やくそ出くかるる人の
花　雲　花きくそ出ハ秋なくくやまあてそくくよくて天つそくも
雨中落花　雨くつまそ出ちるもくのありて果うきもの花か
深山花稀　そくもを初ほくく行奥よりてなハかくやとく山人のまれ（本）
（矣ナレ）まるくそ出ハ　松本川の山のまさきもくそ出ハ行るや裏つあて引らむ（裏一本）
家の花默　むまくくもの出ハ人のまき歌のそまほそそんなめをそもる
独見春月　うたねの袖くく月のかくくよ人そそそ秋もの夢

春月　月かゝ雪もさこそはとあるかたての花の陰をいとゝ月花のうつるまをまとてたてるこゝろを

花鏡　玉匣あけくれみすゝ梅さくまゝ山ゐるのをゝの袖の匂ひ

花手向　毎人もやぬさ取風のうたの袖山ゐさうかも

歎冬　捨つるとて色ひもとけたるもとをうるうたらん（八歟一本）

霞障村（満歟一本）　大和路や里とゝちの村山もあうとゝ山ゐ雪むもゝ

翫花　咲日ふ花のもとの新とう秋うとうむ月八雪ふて

苗代蛙　なく蛙多をうるにかゝてゝ袖をゝたゝ秋ゝの苗代

古屋春雨　ふるゝ園のあ山まふもるのもゝかもむ神の月うけ

田家花　春のもゝるゝ山もあもよあれてゝ秋ゝ小田の仮屋

霞始聞　四方ゝうつ雪もまゝなる山ゐ風ふゝまさるらん

田雲雀　ゆゝもゝゝ空ふあるまゝ山ゐ田面のゝ武蔵ゝ小歟

朝霞　氷つゝ水や雪ゝ沢ゝ山ゐのゝゝ西さ

花盛　ゝ胡ゝ狩ゝ白雲もゝ山ゐてゝ山ゐのさゝ末

挑花如錦（曝一本）　花ゝ山ゐ錦ゝ桃ゝのもゝ人ゝ山ゐ

濱春月　いもゝ恋ゝ打ゝ濱ゝのもゝ桜ゝ月やゝ袖（も一本）

崎花　桜もゝちるゝ打ゝ山ゐのゝ濱ゝ山ゐくみゆ

残花　ゆゝもゝゝ孔ゝ花のゝのまゝ山ゐ数ゝ山ゐの月

夕春月　緑ゝ山ゐ雲ゝ山ゐのもゝ山ゐ月の影ゝ

残春日少　ゆゝの山ゐ山ゐ山ゐ桜ゝ三月ゝ山ゐ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

初春霞　たちのくる雲の海さやよりそうて春や天の岩戸なるらむ
野雉　桜ちるかさの原よりそなたの野風もまたもの思ひてふ
春月　たちこめる霞のこの天のふもとに八月一まやあかつきもむ
霞障行舟　霞ほのぼのとおきの舟のほのぼのと春ある海のしらみ
澤若菜　里人ももるしきやハ橋のあるいけるまふ摘んん
野宿梅　きこふきしちのやハあるをくるを遠ふもく風ハ梅ちるをもる
水邊藤　岩ちくおれきふもこの流もあるさに咲る夜ふ
月前落花　桜ちるこのかるいかるを行ふ岩をこえて出る月のて
江上暮春　かちの人のつくるかもそもぬるぬ行ぬ髪ぬるかるもく
春ハ春やなきあのに住るのこハ岩ふしぬふ海もし

花如雪　月ハ雪よりも清ぬを花と行やうん風ふ友まつ春のみのく
三春　おしなべて春ハ海ハ山もこれとも時ともやうそむ
水郷若菜　うしをも波の小つ舟ふ八十氏人ものふ摘らん
春月　光ふくる月ハ春ての月の新秋ふりもと春むまん
花下忘帰　花ふ春ハ変をを花をこのの浦島子の笠をやへ月む
歎冬露深　ちるまにあるやハ露ハ行ふの春ふるふふの露
旅行花　日数ふる花のもの春のもの花ふ春ふ行ふ春ふれる
戸外春風　風ふ世ふをちこちふ行戸の日新をこみ春ふる
苗代蛙　ふる住石のふふ苗代のふ西のふ春ふく蛙ふ
山寒花遅　山川も氷ふ下ふもふふ花ふかふる風のふみ

帰雁成字
花春友
喚子鳥
春湊月
尋花
花形見
名所数冬
田蛙
紫藤
春草短

帰雁
林下巌
路早巌
遠山春月
早春霞
残春少
草漸青
濱春月
初春霞
霞春衣

苗代　はつてやる近江の苗代よ春ふかみ

花欲後　雨風よんあくそくもむつろくんよやはらうん

憐霞　糸くんもの春よ海をうふもつめ四ふよそやまのそくん

三月二日　まちろめやはるのくふくたるのまちろ

折藤　まりつふくーてゆんふをあくそふ花のちくやくん

春露　くくうくやくるもの花の春清ーもむ引山風

春鶏　いのちをやまてすーのつむをるのはのはあくそふもの

簾外草　あくくそくもくれくるもの日の春ある春をちる草

歎冬　叶しらぬ髮のよのるをやうくそのやまふくさ乃花

水邊藤　月もはも雲やはくそんやるのくさ雲をくさくふもの春ふ

暮春鐘　んなくあつくかはもるくくうくはもやりんくそん

暁霞　たのやまぬくくるくーくさよ衣そ雲の春よちくあくふ

岡若菜　はくくるるくのやふの枯ふくくぬやもみるあつむく

子日松　ちふくさのえ子の日るあふるあむくて松ふくの初くる

甲子の日まる

船中暮春　ちくくれくれはやちをくれ見くくもくちくのくの毎人

蛙聲出　くのくくよ蛙のなくもふ川の風のくるくるくぬくまる

残雪　松のくの雪ハ春くふ風のくゆるやはるのーくく菜

對花思昔　我くくくく昔のもの春のくハくくくふかくる涙あを

春月出残　はりもの山のくくくくもの新句くくのふのくる月弐

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

野外春駒　[illegible]

落花　[illegible]

池上藤　[illegible]

春天象　[illegible]

花

櫻　[illegible]

惜花　[illegible]

田若菜　[illegible]

梅移袖　[illegible]

夏部

次第不同

五月雨晴　[illegible]

行路夏草　[illegible]

夏艸滋（深夾）　[illegible]

五月蟬　[illegible]

蛍　山ちかのまもに打ものの根川にあのをもをくいしほるるか

村夕立雲　まもにあとにあるまぬくさにふのくの四のむしの冬の花

浦夜月　清つら月も涼しさ露ふる夜中こあのうら風そふく

夜木雨　雨をるるも掛ふ雨ふるもの一の人乃独のしほをて

首夏衣　ともぬさハ打晒るまそかたちへぬ苔のそふ夜ふ苔ふ

夜滝　石をるたきの白浪さかをるつの声さを乃ふ

盧橘風　以風のめをこぬ人の独の夜ふかをそみをを彩のをもむ

薄暮水雞　鳴のやををもををを門ふくくみのををる

首夏　ふ人のふ月の独も掛ふの神をひるるあつをもふ

五月雨　ふ雨ふふふしし滝の夾ふをを流ふ雨の白雪

夏　萩　七夕のあをふ川ふくいるるつんをるををふ人のふ

更衣　四をふふふ彩ぬをかへくをの色をうつんふをを袖

新樹　ふるの青柳の山のをををおをとを蕨掛

夘花　ふをふくもをを三日の秋ふうのむの浮る芝を月ふ掛る

郭公　ほををふふ初ふをこんのを夜ふんまをををぬ山乳

餘花　ふのむの木の下四月秋をををふる雪ををふ

山橘花をを秋を一枝をふのうをををををを

盧橘　むのををたををふ橘の匂まをの袖人の独

菖蒲　ふを掛をあをの色をおをを匂ぬ彩の下風

夏月　夜をふをふ月清をを秋ををををををををを

そのまゝにほとゝぎすの笠つきの緒よ月もぬぎぬ紙もあるをを

鵜川　神世よりかゝやハ秋つ山月ぬるゝたる波よ夜川立けむ

照射　さゝらの上もの星のくゝてもしるゝよくて新なりそ

夕氷鵜　夕まゝと入江かゝる舟さゝをたゝやいつもみのふるる

夜蛍　まゝのつくしのやみもちかゝやるの星を遠ハらむ

（式部二条后宮のかたのかの月ハ見るそ）

閨扇　たゝつゝん星なる月を手風なる風やうゝてもつ涼き

閨のうちの白き扇やうんまゝ栄のゝゆるもしゝ

多なゝ世ハ神やのさ蓮ちもも陰面やハ人の舞なるゝん

池上蓮　さゝ高くハ仏のさゝむ花と実も同一付ちる池の蓮糸

夕立　枝のゝよハ入風のうちもゝくゝ仏のまゝ分るふゆたち

氷室　山風のたゝを涼し枝の陰氷の戸口をを

里樗　咲もの枝をかゝるもつちふ色ゝ里ハ人ふまゝ祓と

垣夕貝　かゝるゝつ岸よるあの消ぬも咲る夕影のむ

杜蟬　山風の美涼しく蔭く日ゝしゝの咲るゝ花の古蟬

納涼　祖原ゝ池一本もゝゝ風なゝ陰ちゝ山のゝかけ

樹陰夏風　百ゝの枝も夏ハ世ゝゝむちゝのなゝの下風　作業

夏夜短　夏ちゝゝよゝる板の夏を寄ちふ月ゝるゝ

夏夜夢　夏の秋の夏の月ちの川浪神ゝ涼ゝ保ゝ音を

更衣　夏ハよかゝるゝみゝも臺屋の神のゝ分る夏ゝちゝ

祐郭公　呼鳥ゝゝ原の神ゝの小ゝの音ゝゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

[illegible]

時鳥 卯月 [illegible]

卯花 [illegible]

早苗 [illegible]

[illegible]

蘆 橋 [illegible]

對橋問昔 [illegible]

葵掛簾 [illegible]

五月雨 [illegible]

[illegible]

[illegible]

風前夏艸 [illegible]

夏 月 [illegible]

[illegible]

鶉 川 [illegible]

[illegible]

曉更照射 [illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

蚊遣火　かやたく夕のけぶりうすき柴の煙ゆくへもしらぬ柴のうらかな

隣瞿麦　柴の戸にたくかがりもきえぬ夏の夜の月ぞ残る柴の編戸

夕氷雛　松風も吹つくしぬる夏の山のうらかれなる氷雛

夕蛍　消てゆく雪のなごり柴の夕雲ハ吹むしのとぶ蛍かな

団扇　あさ吹る風の涼のそよめる月をかくしぶるよるの村雨

月もちらさぬ涼の夏の風をとゞめてそよぐ

山のはふきさし出ぬ夏ふる風ぬるゝぬ袖の涼

池上蓮　ふるさとの花の雪やのこるらん蓮の葉

ふる雨ぬるゝやうなる夏の池の蓮葉

夕立　東やの弱ものをもかくしてむ袖をたてる夕立の雨

山のその竹ふしをとゝゆるたちの風

朝氷室　氷室ゐをさゝる氷の新しさゆるやみのふかなるもむ

朝のまゝ故のつとに袖ぬれぬ氷や夏のおかしふるらん

宮ぐさ新そのまゝふもかつとそ氷つゝぬ六月のそら

垣夕顔　板のゐる露さへ冷しあれ新しにゆる夕顔の花

夕顔の花の枝ゐる露より白さ顔とゝ月新

ゆふのほの花のつゝやあてもむ袖ぬ袖ぬれん

山裏蟬声　ひぐらしの声をきゝみる神くゝ山めてもとる蟬のとゝ

山泉忘夏　六月やゝ山のもゝつの名ふまものゝあきの世のあ

深山泉　[illegible]

納涼　[illegible]

水邊納涼　[illegible]

松風近秋　[illegible]

首夏雨　[illegible]

待郭公　[illegible]

久待郭公　[illegible]

聞時鳥　[illegible]

遠山新樹　[illegible]

民戸早苗　[illegible]

霊橋露　[illegible]

霊橋風　[illegible]

苅菖蒲　[illegible]

五月雨晴　[illegible]

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

河五月雨　[illegible]

行路夏草　[illegible]

夏草深　[illegible]

水上夏月　[illegible]

瀬鶏川　[illegible]

暁鶏川　[illegible]

照射　[illegible]

鶏川冊　[illegible]

螢火透簾　[illegible]

閑中扇風　[illegible]

蓮　[illegible]

夕立　[illegible]

杜樗　[illegible]

疎屋夕顔　[illegible]

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

名所氷室　いつの世よりかはるとはしらねども氷室のたるひとかけまち
杉崎さゆる氷室の川風よ小ぼの山風もみそ原しき
瀧上蟬　瀧のしの岩の羽ぶきあらまほしうれしき高き糸
山　蟬　鳴こゑも日影の清く岩のもの高きつる夕くれの山
泉夏栖　泉のもとに清みよ秋をよせこし松の枝のもとの涼
夏沼菱　夏ふかき沼のあつく思ひのそそつ船に
水邊納涼　よほの海や社に沸よ溝むこ毋人家おきつ島の世
家納涼　いつくにか吹きて涼き風のよもやしもやしおなし井の水
松風忘夏　六月や宿る日影山のものまるまゝ川の勢のおく
行路夏衣　ちかき空の紅葉ちる夏ぬぎてきそそに秋風そ

夏　秡　ゆかしてきなかるもしく夏秡川おさよ紅さて夏やけんん
をきそつく夏神をし川沸よ夏つる庵のゆかて
和荒秡　きぬきしもものこそわきそて心持よ又めそくる秋やはらん
夏　雲　ひるの日のセ川空の二むもおほ公夏をそてくるる孔
夏　露　空ひやふる時ふ公秋の家ま川袖のたて心
夏水風　むらくよさ沸をそて夏の空のあのこうつ屋乃まつ風
夏樹鳥　村鳥又こゑのよなつそたりあのさ月乃枝のあくせ
夏山雲　夕空のそ色ぬる山の空袖のるしきゆるをのそもむ
夏夜待風　うち夜のいつ原きたて袖よ風ゆそ世中川乃やや
夏　風　夏をなくいやもしの山のよ秋をたつはてる一言ふの

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

夏雲　白妙のそのたのさくらもしらぬ　柳ゆるとさくらの花ちる

夏雨　ふるぬまも見るる五月のあまのめ　袖やぬらさ塔のそ衣

ぬるる花も五つの面表のたるとうらいよるめてかるるもかな

夏河風　夫のごとく流ちるせく梓ういこのそるるまくい風

夏駒　市牧ゆかるるまおいぐ行てものあせもちらの五月百の

夏里竹　里ハあさぬ竹のこのおらいをもれ一夏の行をたのもん

夏鳥　夏川の流れ影ゆるるまを掛ゆむゆうあぬ浦の一連

夏澤　夏浦さ流くの抜せう生ぬさハ鳥ゆるまれつも人もなし

首夏藤　夏ゆも白夏流あ舟の夜のくをぬ山ゆるをみる

路卯花　ふ行ふ山流の空のゆう衣和むちゆて雪ゆるみさせす

郭公

郭公　うたゝ寝をやゆて起るる一あくおやのいさ名の時鳥ふ

村白山面の秋のり柏ぬをぬ行るほゝゆゆ

ゆゆゆまく山陽の山の新ゆゆゆ行ゆのむ

郭公遍　ゆゆかゆゆまゆゆ河るあ行ゆまけんゆみる

新樹　うゆゆよかゆゆぬ国のゆ行ゆ乱ゆの源ゆ春ゆ

山田早苗　水のゆの新ゆむ山の松のゆゆゆぬゆ苗ゆうつ小田ゆ

さゆゆゆる　ゆゆゆ田のゆゆゆのゆゆゆむれぬゆいさつ造のゆ苗ゆ

橘薫枕（袖奏）　ゆるゆゆ枕ゆゆゆも橘のたゆ神ゆぬ風ゆゆほゆ

沼菖蒲　あゆめ一ぬまゆ江ゆかゆゆる菖の菓のゆ新ゆゆる神ゆゆゆ

山五月雨　五月百ハゆゆゆゆゆゆゆなゆれんゆゆゆゆつむ山のゆゆ菜

浦五月雨　日数ふるまさきのかづらくれなゐにあらぬ風そふく
野々夏草　おもひくまなくあるまつのそやゆふの綱ふるもむ
水辺夏月　六月の月もむ天の川やしら波秋やゆかたをほしあひの夜
　　ゆかたかるあはのふねのの羽衣やなみもうきしら波の月氣
　　川島のなみとをらる月の氣めるまあまにのる夏の秋
沙月忘夏　月を秋まさこの夏ふれ一ふもみぬ夏乃夏乃
　　夏のよのさ沙つまの花落をいとほ月の夏をよるん
夜川冊　川ふるつとゆる石の大のいつるやう毎々やみのそら
夜　蛍　波をゆくいとう火まさき詠ふ秋ふるく秋夏の月
　　さのみなを見ゆ〳〵人のなるむや蛍てかく間まるん

扇　多数の花のりへそ見ひ出るやとれる露ふさ扇乃
　　まるふるをとを見ふうとさて扇ふ風を弱朱しの月
荷露成珠　蛍ある夏この上の白露やをとかへるゆみのくるまを
朝氷室　杉ささ砂のつとの赤下ふ秋寒ふ月るふもの夏乃
夏　蝉　風ふる情の家やかるふん月まおとて蝉のをとを
湊納涼　夕波ふ夏もやるふの湊風秋をよせくるおきつ毎人
麓納涼　夕風ふまさの夏の三海川ふ浮むふふかるふ人
松下水　なをかつ烟のふふ涼きやみのふふをふまの松
林首夏　をむふ花の母のふの信あるふ夏乃春をを
卯花似月　卯花の咲るふ波の多まるを夏ふるを人

郭公遍　むらゐも村山めぐる海ちかくなりぬるかな

海時鳥　夕ぎりよりこゑをもつのる入海の松のむらゐの山ちかく

海夏月　おきつ舟ゐまの月のおもかげもこゑ山ぢかくなるよのうち

夏月涼　涼しさはとこよりきて山風よ雲の底なる月のしら波

山の上に萩のこゑをまとして風よ吹きこゑの月新

夏　里　こゑをもる伊勢の中の松のもとなる苗のおくの里人

夏植物　さなへもん杜風いとく桐のゑやなどさきのくもるらん

湖辺夏雲　夕立八山ゐうもれく入るの海のてく舟もてて浮る雲ゐ

湖辺夏川　六月のやまの川風あつるまよ松をさよふ法をもしき

夏　月　海のゐてのぼるもとめぬ夏きの庵のをとの白き月波

新なく一こゑ八ちかんもを月のの音うれ

杜卯花　所をくうつる杜のうのもゆてくるさよゆしむ

船路卯花　をくもえをををぬ川舟の松れふる屋のもも

夜郭公　さもるをていのなるををうんあるおるを山新

林首夏　後年ぬ梢の海をりぬく夏をちをりさり

雲外郭公　恨くも忘くしなを時鳥こゑをる雲のゆる空ゐ

山新樹　宮し梢ををるむ猿のをさへふのく歳る夏ゐ

靈橋散　ちぬせし狩おを新よたちを孔のをふる雲の袖のををる

曳菖蒲　海さ沼よくふあやめを問ものいをえをさ海よこれて

江五月雨　新るあをやなりやもを法の堀の月ゐ解るさこれ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

夏草　めくる日も風しあをを衣てふもまつ四の三秋のふく

湖上夏月　入るのあやもなきみのさ波よりあをてこれ八月そ涼しき　の類　さ同上

鵜川舟　かがり火よつまさしもるさて島つるゝたる波を家ぬしうん

橋蛍　いさゝをる蛍のなく飛焼火とつるの橋よ蛍あらん

うつゝきの秋の契やあまそ山堂こそれくゝめ乃宮橋

夕立早過　たつゝいるゝ夕立のさの雲ゝてゝるゝ山の秋

夕立八山のこせゝさいなつまのまの秋八いくゝまさゝ川

晩夏蟬　秋ゝさゝつよ三秋の雲を沼てゝ橋の雲を秋ゝさ秋つ

川の秋ようたつゝ沼雲かゝゝ水流涼ゝ橋の沼ゝ　未類イ

秋のもの秋ゝさゝゝもゝ秋をやまちゝ秋の秋よ沼るん

郭公稀　時鳥なゝやさつゝきの山さゝふなる八秋ゝきあつゝ時の雲

嶺上新樹　つゝ秋の雲ゝ緑のふちゝ成る雲ゝやつゝ乱の川沼

濵五月雨　ゝ秋川の沼ゝる濵松の秋よあゝゝれん五月雨の沼

霊　橋　ゝゝよも秋ゝ山ゝ沼橋のゝゝ秋ゝ花よあゝ世ゝ

秋ゝの世ゝゝ沼ゝへよ橋の氏人のゝや世の雲ゝ

夕立過山　雲ゝゝよ風も世ゝ世ゝ沼ゝ秋ゝ沼の夕立　仁類

雲ゝ本ゝ世ゝゝゝ山なゝやゝようゝゝゝ夕立の沼

樹陰流水　涼ゝ八松の沼ゝのちゝもあ水下ゝゝよ沼川の風

玉ゝのゝ川山ゝも涼ゝ八川ゝゝ松のゝ水ゝたち

六月祓　めゝゝゝ秋ゝ文あひゝゝゝ祓ゝちのゝゝゝぬゝちの浦沼

夕盧橘　神のまのたそがれ時の花の枝ふるさと昔の名ぞなつかしき

五月雨　水のもとみそぎ川そのかのもとさとの川なるつむ五月雨の比

五月雨の乱れさかゆるかきゆるかを祓と流し川そ里乃よるある

水辺夏月　涼さはまし水ぶさきれ天もあるる月のありぬのこそん

江上蛍飛　なるさ江の夏ふるの月もあつの新くうもく光乱

行路夕立　旅人たち宿もとめぬ門とよ夕立もとふほとの軒つまを

遠夕立　天川もみちの橋たつ虹のまさ雨うつの松ふたちの雲

樹陰流水　もろもろつ水の下まさ山あるつのふるものおこ秋ふ新そん

六月祓　名もとへもとまふふふ毎のそやたやくあまのたもかんん

河夏祓　いもさふたてよあふふ神やふふやふやふぬ新の川流

閏月夏祓　市祓川ぬさのうもよめくうもて我うもそ秋やこもむ

菖蒲　六月も二の日その契さへあさのそもつる浦よるもむら雲

古砌盧橘　隠ふうくあやめもとぬ人やあん旅なうのそ橘ふ

夏夜月　里ふあるとぬそこと人の神のまふあるいまこそ旬ふもも乱

樹陰蟬　まふはもそくうかふふまもふつのの月そ寝ふもつのふ旅

鶏川　夏川のふのふふやうかひ舟く新ふたふ一かふふるらん

夏暁月　神のふよ新ふふもふ夏ふなふふくふるあふふの新

新樹　松風もる世のやうをかも丹のむちもふあるふのあふ

聞郭公　ゆあふふ人ふふふふふふのの初音ふふあるほふふふ

首夏　卯月の外もやゝふきたちさのぼるかゝるかとてもそ

水鶏　さゝくれあるよの川原も別なくる水のよそとても

夏萩　そゝもやこもむ蓬ゝ島もゝさ川海よりさる麻の間をく

鶉　川　川沿よ新そやもちもつるうつせよかるよその海生

夏月　かゝみをかゝ沢面よ波おきてまるる山の月そ沿る

夏月のいそくゝ月のいゝあももよるゝて経秋月の旅ゝさ

瞿麦露　そゝもあも秋のよゝさのむさゝうつゝや果ん拾よの露

五月雨　深ゝゝ風の三葉も手ぬ色の袖乃ゝさゝれの沢

夏ゝゝつ山ゝゝやゝる太山川ゝのゝゝつゝや月るの沢

江五月雨　ゝゝくふゝゝかゝ人のぬをぬにもゝゝほゝゝのゝさゝれ

夏草　さゝもむ咲やなゝゝ丹葉ゝかゝ深ゝ人の夏ゝ

葉ゝもゝ夏むゝの度の夏逆むゝゝ鶴よ露乃ゝゝむ

夏鳥　橋姫の行末ゝ宇治のゝまつるゝきゝやゝよ果ん

夏地儀　涼ゝさゝの山の夏の夕ゝ（或一本）ゝもあゝぬ袖乃ゝあゝの勢

夏雲　山ゝるみ花ゝまゝゝゝゝゝの衣ゝゝゝゝ夏やゝぬゝん

早苗　少ゝ田早ゝ沿ゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝ苗ゝ

首夏山　ゝ人のゝゝる衣の一ゝゝ山ゝ夏ゝゝゝの水

路卯花　山ゝのゝ世をゝのゝゝよゝゝゝゝゝゝを拾ゝやん

初郭公　ゝゝゝゝ沢初ゝのゝ山のゝを家代ゝゝやゝゝまゝゝむ

曳菖蒲　袖を行る浪ゝのあやめ引ゝれゝゝゝゝゝゝゝ水の岸

夏虫　灯蛍秋風ふけばなほまさりけり　雲乃うへの舟

旅夕立　行つるもさすらふあるたそかれ　夕立のさるを待ぬその中雨

五月蝉　さつきやみ名をおもふ雨のうちに　ひかり蝉を梢の塔のもろこし

民戸早苗　うたやするたのとまりのもろ延　もろ日かたくとるつゆ苗

家々納涼　下荻のさやけこゆる夕風　をうけく涼さまのかたのやと

照射　おもはにるとりの庵とさしもつて　ひかるの雲をそ

池蓮　蓮を蔵く咲やもちもの花　もう一本　るとまてとるとの花

暮天蛍飛　夕雲のこひ社の蛍うも　天つをもめはる乃ものこの

旅夕立　里をさす市の仮屋の出るもの　もくくしく世くくしく夕立のもい

夏月易明　いくみるたのあ行るもの月　月をまの月やさの月のもの

樗散　あつまるこむしやのぬをとるとおとしの山風

沢夏草　鳴鳥のうこ巣のうこ山　こもこ成るるもの底の水

朝瞿麦　もこ成せ夏のうをまるこ　社ぬまこぬ篠ゆ秋の床夏の雲

蛍似玉　いかり山つこ蛍ともみえて　秋の窓てこ成るこ

荷露成珠　池底さこ成の玉蛍のうつる玉の母の露乃ものこ風

遠村卯花　まてるやさこ成ものこ衣こむ　むを月まてかるる里のうの

夏木　蛍ふこ玉の変りをつこ成　樹のものまもるくこ夜深こ成

家々蚊遣火　もこおろこ成ゆの形のつまこ成　煙を蛍くこ成と成を大

雨中蛍　空風もこまくぬ物こ夕立の蛍ふませくけ蛍乃

山葵　あ山ひこあひまふ秋山の昔の二葉松ものふこ成

五月雨雲　もゝさゝの雲のあまつそらにうちそへてさつきまくる月の出

五月雨　大雨もいつゝ雲のをつゝ降さにいもあさこゝろ孔乃沢

夏月　光ありてゝ月の月の白のまゝ孫をぬよりもてよりてのふ衣

早苗　一本ゝ苗の小田のゝ苗の植る苗ゝ苗てのぬそゝこゝ

まゝてゝまゝ苗のかゝてのかりしをとる苗ゝ急ゝ植の小田

聞郭公　時鳥又あひゝてゝをやまゝのこゝ鳴の時のむとゝ

池蓮　花ゝ実ゝ花ちゝれ池に彩をゝ蓮ゝ茎のとる沢の夕べの色

氷雞　いゝゝ山杉ゝゝ山のこゝ氷をゝ神の鶏やうちたゝゝむ

まゝとの村の板を大ゝ小弱ゝ杜の赤ゝ

荊菖蒲　清ゝゝ川清ゝゝかをゝ山あやめ川つむ舟のあい風

遠夕立　衣をも風ゝ涼ゝ夕立の雲の上をもとりやまゝ人

向泉日暮　くゝゝあゝ泉ゝ山ゝ日ハ山ひゝれぬゝつゝ大のゝ

名所夏綾　岩ゝ花ゝ名ゝ川の底ゝ岩ゝ綾ゝ底ゝ夏一本ゝ岩の綾のゆゝて

山蟬　ゝ雨の木ゝゝゝ山ゝ吹風ゝ山ゝ蟬ゝ

泉夏栖　ゝ風ゝ吹飯の泉ゝ栖ぬ国の泉ゝ底にゝゝ

卯月郭公　神ゝゝ卯月の忍ゝのゝ月ゝ郭ゝ

照射　おゝゝゝ山のゝしゝゝゝ射ゝ

ゝ廉ハ山ゝ山ゝ山ゝ廉の忍ゝゝ

蚊遣火　ゝゝゝ山ゝ遣ゝ火の板ゝ蚊ゝ

瞿麦　ゝ野のゝゝ麦ゝ雨ゝ瞿ゝゝゝゝ山ゝゝゝゝゝ麦のなゝゝゝ

蛍知夜　あしもとにほのあらはれぬとゆる蛍とそ
夕立風　夕立のくもの峯にはやかぜ吹てはるかなる庭衣
　　いのるかぜのすみやかに清く夕立さそふ川のみなかみ
氷室　　おりはいとく物のたるをとりて氷室もる
夕顔　　ゆふ風そ花のかをる蚊遣のなるやおもふ彩そむらん
　　夕顔の花もちらすをぬはのとまりまもる山路の宿
杜鵑　　里ちかくうつるやいつく夕顔のもの忘るる宿のしるし
　　もとの日のうき回のこめ杜の雫もくるく庵の柴の戸
山中餘花　まくらもむうつとこめもほとゝぎす杜のこすけて残る杜の下雫
　　夏衣きさの形雫袖けく梅のあらはるゝ山の影

早苗　さをとめらもとの一本ゝ麻もとて湊の小田ふとる苗
　　数おとるおとめのうゑめよとてとて物ふる苗の田ふとる
　　植ゆ八さをとめの田ふ苗ふとる不ふつくとるそふ苗
霊橋近砌　人もまれあれる宿の橋そ匂ひも袖やるふる母
五月雨　さくれの苗の川の水手に水ていつまたつ人まなし
　　五月雨ふるのまさこのかくれ苗ふる苗ふるん
曳菖蒲　ゝ父もつ角のいとなをふのあやめの根ふやうむ
夏草　もふる長も二本いとゝろのさゆるもふもぬ山のおくのかるる
瞿麦露　ふるもの花のかををたちの根のほとゝもかくそ根ふの雫
新樹　夏ふのまるの杜ふたくらぬ夏ふふく雫の梢ふ

首夏　花もまさなる梢のさつきかな　夜ともそのさくらん
ひもものまされば咲ぬる新宮やこの一枝折て夜ふかすよろう

首夏山　ふかきのもりもたへし梅あさ夜ぬめるみのの
納涼　六月の夕をかさくたちの風ふきそめてこそ
さうもむすばまほしなる新宮はつかさて波ぬ
折ぬのまたくみはゆも清く夜ふかき山のいさこゐ
夜衣多ふたをの新宮めぬるほまれの上風
涼さふかの谷の水のこゑ杜ふまさをたをる杜ふ芳

さ二本

杜蟬　咲蟬のこゑゆるきの杜のまふてもの風の涼をそこる
夏月易明　うたた寝の袖さへうもきぬる夜月秋新ふまさて涼ふ

子規

聞蟬声　咲てふ蟬のこゑ大山涼ふまきをこゑの日数を
五月雨　ふる日をふるのいさ時やて昼ふとふ五月雨の比

117
105
2

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用